水土里レポート　投稿様式	
投稿月日	平成３０年１２月１７日
タイトル	日本一の生産量「くわい」を初出荷しました！２０１８
水土里レポーター名	水土里ネット福山　佐々田　愛

平成３０年１１月１３日（火）ＪＡ福山市川口グリーンセンターで、生産者や報道機関が集まり「くわい」が初出荷されましたので取材しました。

「くわい」は生産量日本一の福山市の特産物で、芽が出る縁起物としておせち料理に欠かせないものです。

早朝よりくわいが次々に運びこまれました。２Ｌから２Ｓの「こつぶちゃん」まで大きさによって分けられ４キロの箱で６６２箱が出荷され、芽がしっかりして艶々した「くわい」が勢揃いしました。検査員がひと箱ずつ検査し、重さを量り「合格」の印を押しておられました。

その後、初出荷を祝って式典があり、くわい出荷組合の喜多村組合長が「７月の豪雨、８月の高温、９月の相次ぐ台風による日照不足で生育が心配されましたが、１０月に晴天に恵まれ全体的に小玉傾向ですが身がしまりホクホクとおいしいくわいとなっていると思います。」と挨拶されました。また「土地改良区に出向き農業用水の確保をお願いしたところ、しっかりと配水すると力強く言っていただきましたので、みなさんは用水を無駄にしないよう節水に心がけて大事に使いましょう。」言われました。

式典後、生産者に出荷基準を実物のくわいを使って説明されました。色が青くなくピンク色のものや形がいびつなもの、芽がこけたものは加工用になります。生産者の皆さんが熱心に聞いておられました。

今年新規就農された方がおられ話をお聞きしました。１４ａ生産され、この日は７箱出荷されたうち、洗浄不足などを指摘され２箱しか合格がもらえなかったそうです。「厳しい品質管理で日本一を継続しているんだと思う、今年は１トン出荷するのが目標」と言われました。

１２年前に新規就農された生産者は、皆さんから「お～」と声があがるほど形も色も立派なくわいを出荷され今年は検査員をしておられます。初出荷に参加しておられた方が「新規就農され今ではみんなの見本になって、規模も大きく大百姓になって夢があるわ！」と喜んでおられました。

カメラに向け、お正月には一家団欒でくわいを！

「畑のサファイア」をめざして選別！

今年は７月の西日本豪雨災害で、土砂流入などの直接的な被害はなかったものの場所によっては浸水被害で植え付けたばかりの苗が低水温や肥料等の流失で生育不足となり、中には植え替えされた方もおられたそうです。また、１１月になっても比較的温暖で朝の冷え込みがなく「くわい」の特長である「青色」が薄いものが多いようで、これから寒くなりきれいな青色になるのを期待しておられました。

生産者のみなさんには、寒さが厳しくなり水に浸かっての収穫作業も益々過酷になる中、風邪などひかないよう健康管理に気をつけてほしいと思いました。

水土里ネット福山では、農業用水や土地改良施設の重要性ともにくわい収穫のために水利権を得ている期間の農業用水の安定確保により、生産量日本一の福山市の特産物である「くわい」に関する情報発信することにより２１世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。